

十五代酒井田柿右衛門展における出品作品のデータベース構築

Database Construction of Works Exhibited at the Kakiemon Sakaida Kakiemon XV Exhibition.

濱川 和洋

九州産業大学

Hamakawa Kazuhiro

Kyushu Sangyo University

Key words : Sakaida Kakiemon XV Exhibition, Database Construction

要旨

本稿では、十五代酒井田柿右衛門展に出品された全作品の情報を整理し活用していくためにデータベースを構築した。4,271点の作品の詳細な情報を収録し、検索結果からは十五代の襲名10年目に至るまでの作風の変遷を見ることができる。今後はギャラリートークの分析結果や作品解説も入力していく予定であり、十五代に関する情報のデジタルアーカイブ化を目指していく。

Summary

In this report, a database has been created to organize and utilize information on all the works exhibited at the exhibition of Kakiemon Sakaida Kakiemon XV. Four thousand two hundred and seventy one works are included in the database, and the search results show the changes in style up to the 10th year after the succession of the name of the 15th generation. In the future, the database will also include the results of gallery talk analysis and commentary on works, with the aim of creating a digital archive of information on Sakaida Kakiemon the 15th.

1. はじめに

十五代酒井田柿右衛門（以降、十五代）は、2024年2月4日に襲名10周年を迎えた。筆者はこれまで十五代の作家活動を記録するため、2017年3月より十五代酒井田柿右衛門展（以降、個展）を中心に図録の収集およびギャラリートークの記録を行っている。長期にわたって収集したデータからは、十五代の作陶における美意識の変化や作風の変化を捉えることができる。例えば、(濱川, 2020)¹⁾では、ギャラリートークのテキストマイニング手法による分析から、作品解説中における「赤」という語彙の出現頻度及び共起関係から団栗文や桜文をはじめとした文様の配色の変化を捉えた。また、(濱川, 2021)²⁾では、2017年から3年間の作品のデザインに関する意識の変化について明らかにした。これらの研究を継続することで、新たな作風を生み出していく十五代の美意識や人物像を深く理解し、時代性や芸術性といったものを読み解くことが可能となる。しかしながら図録については、“ギャラリートークの分析結果から作品の詳細について図録の写真で確認する”という一方向でのみ活用しており、収集した図録の作品全てを細かく比較分析することが困難であった。これらの情報を項目ごとに整理し、データベースにまとめることで、分類した項目同士の関係をより詳細に知ることができる。例えば、襲名から現在に至るまでの文様に関するデザインの変遷や、文様と器種の組み合わせなどについて

て情報を簡単に抽出し、様々な組み合わせで比較分析することができる。また、今後情報を蓄積していく上で、データ入力のコミスを防ぎつつ、効率よくバックアップを作成していくことができる。そこで本研究では、膨大になりつつある作品に関する情報を整理し、活用していくためにデータベースを構築したので報告する。なお、本データベースは一般に公開するものではなく、伝統みらい研究センターにおける研究資料として活用することを目的に構築したものである。

2. データベースに入力する情報の整理

2.1. 図録について

基本的に図録は、個展毎に製作され顧客に配布されている(図1)。図録の表紙を巻くと、個展のタイトルと会期及び会場の情報が記載されたページから始まり、主催者の挨拶、十五代の挨拶、濁手の概要、主要な出品作品60点程の写真と作品名および寸法、十五代のプロフィール、制作工程の紹介、柿右衛門窯の工房等の写真、酒井田柿右衛門家年譜が順に収録され、別紙で価格表が挟み込まれている。2024年2月までの個展全61回の中で60回分の図録が製作されており、筆者はその内の58冊を収集している。しかし実際には、個展会場の依頼により特別に制作される作品や展示会場に急遽追加される作品があり、図録に掲載されない作品が多く存在している。そこで柿右衛門窯の協力を得て、図録に掲載されていない作品を含めた襲名以降に出品された全作品のデータを入手した。十五代は個展のほかにも公募展などでも様々な作品を発表してきているが、例えば日本伝統工芸展への出品作品には、新しさや斬新さが求められることから個展の出品作品とは若干趣

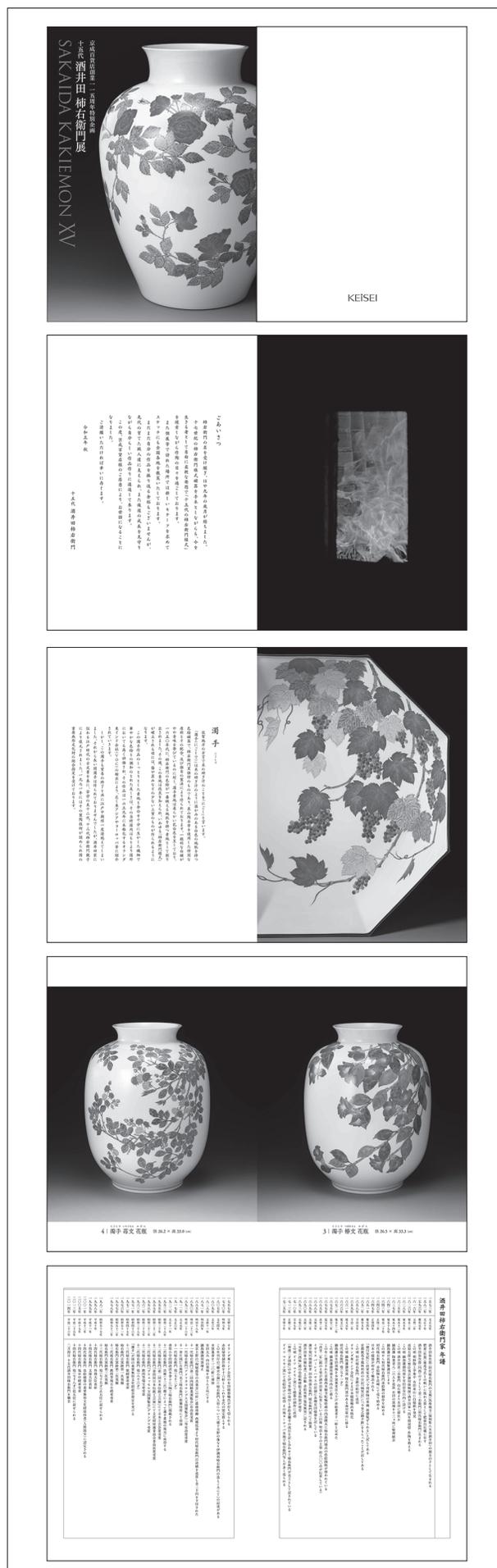


図1 図録の例³⁾

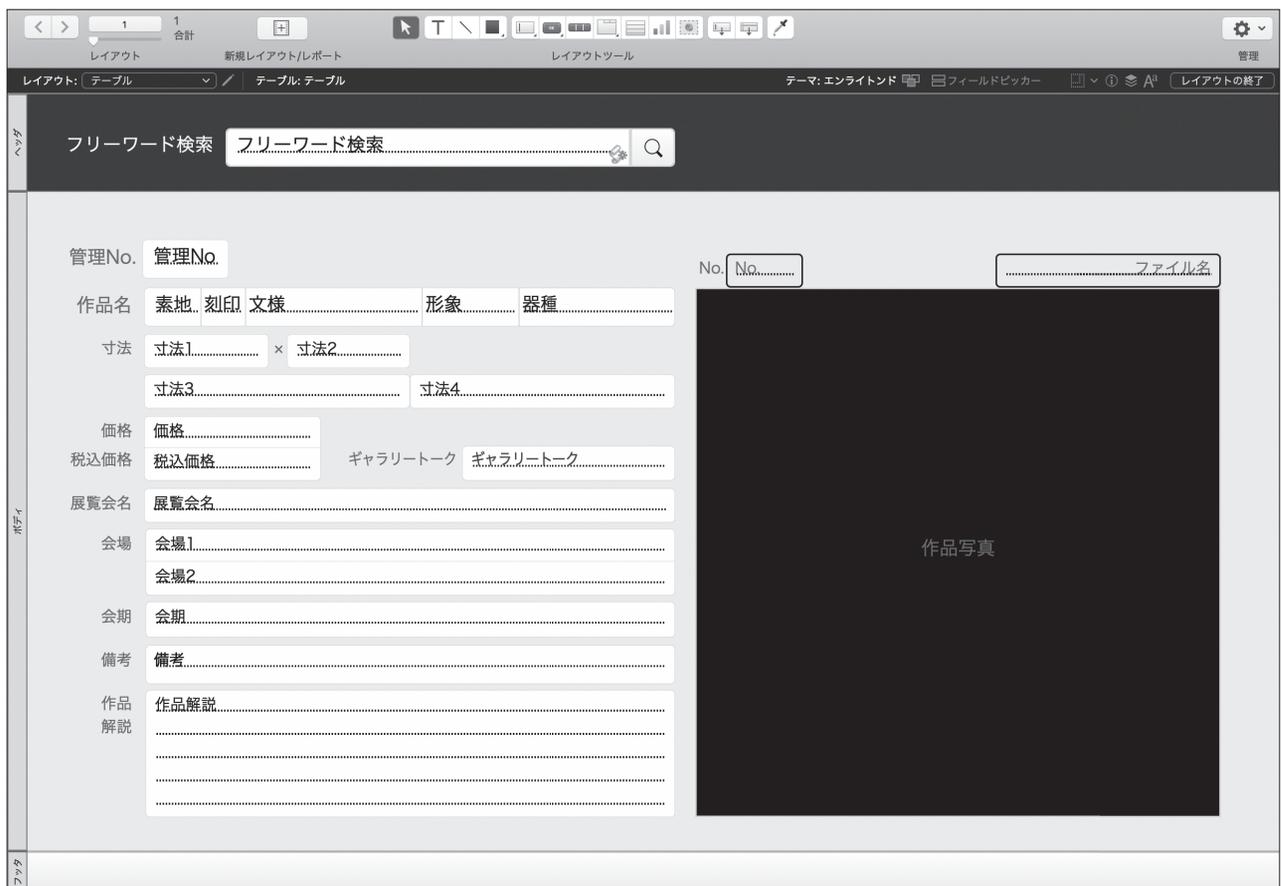


図2 データベースのレイアウト

が異なる作品が多い。従って、本研究においてデータベースに収録する情報は、十五代の標準的なデザインが多い個展の出品作品のみに絞りデータベースに入力することにした。

2.2. 情報のカテゴリ分け

データベースとは、辻靖彦，芝崎順司（2023）によると『ある目的のための共有性や再利用性を意図して、一定の規則に基づいてコンピュータ上に格納されたデータの集まり』⁴⁾と定義され、『蓄積した情報を適切に管理でき、適切な時に適切に取り出せること』⁵⁾が重要となる。そのためには、膨大な情報をカテゴリに分け、後に必要な情報を取り出せるように分類し、整理する必要がある。特に「作品名」については“作品が具体的にどのようなものかを示す文字情報”であり、今後作品の特徴を検索する上で最も重要な情報となる。従って、作品の特徴に応じて情報をスムーズに取り出せるように作品名を細かく分けて分類し、FileMakerにてデータ

ベースのレイアウト編集を行った（図2）。一般的に肥前磁器に関する陶磁器の名称については、佐賀県立九州陶磁文化館の分類に準ずることが多いが、柿右衛門窯では独自の分類や呼称があるため、以下のように分類した。

【素地】

柿右衛門窯において制作される焼き物の素地は濁手と錦手に大別できるが、個展に出品される作品は、基本的に十五代を会長とする柿右衛門製陶技術保存会が制作する濁手素地である。しかし、今後錦手や青磁等の作品が出品される可能性を踏まえて「素地」のフィールド（図3）を作成した。

【刻印】

柿右衛門様式磁器の特徴の一つに土型を使用した型打ち成形があるが、器の成形に使用する土型や石膏型にへらなどで文様が彫られている場合には、素地に凸状の文様が転写され陽刻文となる。逆に型に凸状の文様がある場合には、素地に凹状の文様が転

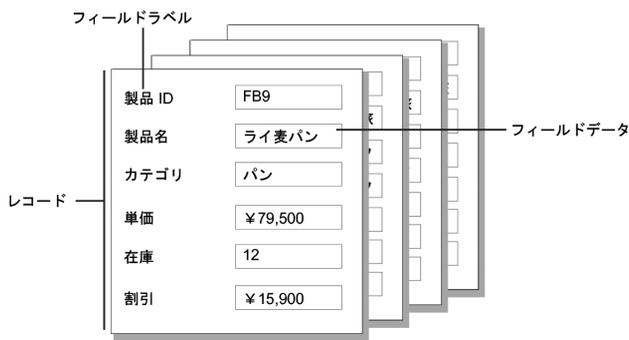


図3 データベースの各要素の名称⁶⁾

写され陰刻文となる。現段階で陽刻文の作品が数点見られることから、「刻印」のフィールドを作成した。

【文様】

文様は、今後モチーフの描き方、配色等について分析する際に最も重要な要素となる。従って「文様」のフィールドを作成した。

【形象】

形象は器の外形を分類するもので、例えば皿が型によって整形され、縁が花のような形状をしたものは輪花皿と呼び、八角形の場合は八角皿と呼ぶ。壺では、上部から見て六角形に面取りされたものは六角壺と呼ぶ。近年は形象に関する呼び方は、作品名に含まないことが多くなりつつあるが、これまでの出品作品を形象で分類する可能性を踏まえて「形象」のフィールドを作成した。

【器種】

器のプロポーションによって皿や鉢、花瓶などに分類されるが、その種類を器種と呼ぶ（図4）。柿右衛門窯においては、器種について独自の定義があり、例えば一般的にイメージされる壺のような形状で蓋がないものは花瓶と呼び、蓋付きのものは壺と呼んでいる。器種は文様と同じく流行や時代に影響されやすい要素であり、例えば「現代のマンション暮らしの人には、場所を取らない陶額の人気が高い」など、器種の出品数の推移から流行や時代の特徴を把握できる可能性がある。そのため「器種」のフィールドを作成した。

なお、作品名以外のフィールドについては以下の

平面的 (開)	 器高 口径 1/6以下	皿	形態	平たくて、そこが浅く、口が開いた器。
	 1/3未満		機能 構成要素	のせる。もる。 底+口
プロポーション	 1/3以上	鉢	形態	皿よりもそこが深く、口が開いた器。
	 1/3以上		機能 構成要素	もる。入れる。 底+胴+口
	 頸径 胴径 2/3以上	甕	形態	体が大きくて、口が広く底が深い器。
 2/3以上	機能 構成要素		入れる。たくわえる。 底+胴+頸+口	
立体的 (包)	 2/3以上	壺	形態	体がまるくふくらみ、口がすぼまった器。
	 2/3以上		機能 構成要素	入れる。たくわえる。 底+胴+頸+口
	 1/3以下	瓶	形態	頸が壺より細長く、口が小さな器。
 1/3以下	機能 構成要素		入れる。たくわえる。 そそぐ。 底+胴+頸+口	

図4 焼き物の形と特徴 ※参考文献 [3] を参考に作成

通り。

【管理 NO.】

過去の作品から作品番号順に並べた数字を入力するフィールドである。

【寸法】

径と高さが記載された作品が極めて多いことから、径を「寸法1」、高さを「寸法2」とした。また、香炉などにみられる長辺と短辺がある作品は「寸法3」に入力し、カップアンドソーサーなどの組物は「寸法3」に碗、「寸法4」に皿の寸法を入力できるようにフィールドを作成した。

【価格・税込価格】

作品の価値を表す一つの基準として「価格」と「税

込価格」のフィールドを作成した。なお、2019年10月1日を境に消費税率が8%から10%となっている。

【ギャラリートーク】

ギャラリートークの開催日時を入力するフィールドである。

【展覧会名】

展覧会のタイトルを入力するフィールドである。基本的には十五代酒井田柿右衛門展であるが、襲名間もない個展では襲名記念という文字が入り、個展が百貨店の周年記念を兼ねている場合には、会場に因んだタイトルが付けられる。

【会場1・2】

百貨店などの名称を「会場1」に入力し、店内の会場の場所を「会場2」に入力するフィールドである。

【会期】

個展の開催期間を入力するフィールドである。

【備考】

専用のフィールドを設ける必要性が低い情報を入力するフィールドである。

【作品解説】

ギャラリートークの分析結果や作品解説を今後入力していく予定である。

【No.】

出品リスト及び図録に記載されている作品 No. である。

【ファイル名】

「個展日時」と「作品番号」を組み合わせたファイル名としており、データベースの文字情報と写真のデータにズレがないか確認するために設けた

フィールドである。

3. データベースへのデータ入力

データベースへのデータ入力は、Excel でテキスト情報のみのリストと FileMaker で作品の写真のリストをそれぞれ作成し、データベースのフィールドにインポートした（図5）。詳細については以下に示す。

① Excel で作品のテキスト情報を分類ごとに列に分けて入力する。

② FileMaker でデータベースの各フィールドに①のテキスト情報をインポートする。

③ adobe Bridge を使い、作品の写真ファイルを「個展日時_作品番号」の順に並べファイル名を変更する。

④ FileMaker で新規ソリューションを作成し、「ファイル名」と「作品写真」のフィールドに③をインポートする。なお、作品の写真が無いものについては図6に示す画像を使用した。

⑤②のデータベースに④をインポートする。

⑥最後に収録した情報を取り出すための「フリーワード検索（クイック検索ボックス）」を作成する。「フリーワード検索」はヘッダに作成しており、フォーム形式及びリスト形式でレコードを移動しても常に検索欄が表示される。なお、FileMaker の検索モードから各フィールドにキーワードを入力することでも検索は可能であるが、膨大なデータから意図した情報を抽出する手間を省くために「フリーワード検索」を作成した。

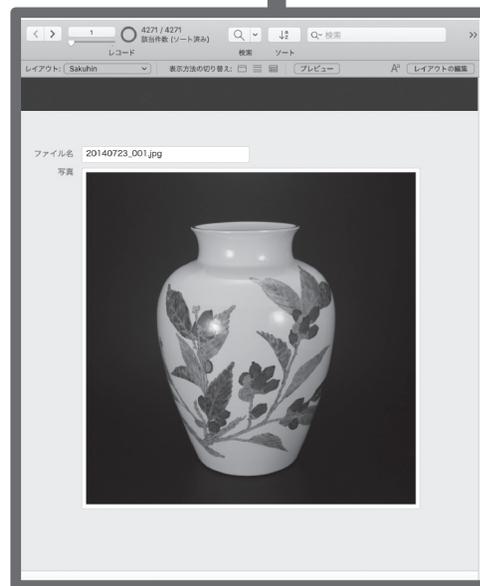
以上の手順を経て個展 61 箇所、4,271 点の作品の情報をデータベースに入力した。会場によっては



データベース

作品No.	品名	寸法	価格	税込価格	展覧会名	会場	期
1	濁手 団栗文 花瓶	29.5 x 39.7	¥2,000,000	¥2,160,000	襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展	日本橋三越本店 (1) 本館6階美術特選画廊	2014.07.23-07.29
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

Excel ファイル (文字情報)



FileMaker ファイル (作品写真)

- 1) データベースに Excel ファイル (文字情報) をインポート後、管理 No. 順にソートする。
- 2) FileMaker (作品写真) をファイル名でソートした後、データベースにインポートする。

図5 データベースへのデータ入力のフロー

企画品の情報がデータに含まれているが、同型のものが複数点制作される企画品には、入手したデータに限定数が明らかなものと明らかなでないものが存在することから、複数でも1作品としてカウントし、備考欄に限定数等の情報を入力した。

4. データベースのテストラン及び結果

データベースは、構築後運用しながらデータの活用方法に応じて検索方法やフィールド情報を更新していく必要があるが、まずは現段階での不具合の有無を確認するために「フリーワード検索」と「検索モード」を使い、文様や器種について試験的に検索を行った。

文様と器種についてそれぞれ検索し集計すると、文様は39種類あり、作品点数が最も多いのは梅花文638点、次いで団栗文556点、苺文432点であった。器種は28種類あり、花瓶が989点、皿が679点、香炉が598点であった。更に情報を絞り込み、梅花文の上位3位までの器種は香炉200点、花瓶89点、花器78点、瓶78点であり、団栗文は花瓶252点、香炉62点、皿62点、苺文は花瓶145点、花器76点、香炉62点であった(図7)。これらの検索結果を比較していくことで、文様と器種の関係や何らかの法則が明らかになる可能性がある。それ以外にも、モチーフについて年代ごとに並べると「いつ初出品されたか」や「いつから出品されなくなったか」についても知ることができ、文様のデザインについても、細かく時系列に沿ってみていくことが可能である。しかし、検索をしていく中で「フリーワード検索」使って「松」のみで検索すると「松竹梅文」や「松坂屋」など、「松」を含む全フィールドの情報が表示されることがあり、キーワードを組

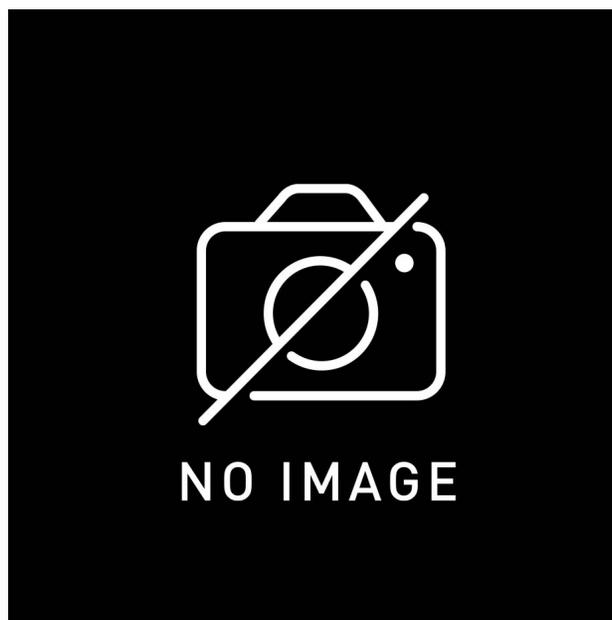


図6 写真が無い作品の代替イメージ

み合わせて検索する場合には「フリーワード検索」を使い、フィールドを絞って検索する場合には「検索モード」を使うなど、使い分けが必要である。

5. 考察

本データベースによって、これまで認識することが難しかった僅かな差についても抽出できる可能性が高まった。この差というものは、過去と現在の作品の比較や作品を構成する諸要素の比較によって明らかにされる「変化」であり、この変化の積み重ねが十五代の足跡となり作風となることが考えられる。しかしながら、十五代が作りたいものと顧客が求めるものが毎回一致するとは限らない。柿右衛門窯は、その時代時代の需要に応じてきたからこそ現在に至っており、顧客から求められる条件によって生まれる変化も当然存在する。また、事業者の廃業や産地の消滅によって道具や原材料が枯渇し、代替するものがなく、変化せざるを得なくなることもある。人の手で生み出すものは時代の影響を少なからず受けるものである。従って、十五代自身の変化に加えて、時代背景や社会との関係性についても幅広く情報収集していく必要がある。いずれにせよ長期的に記録しなければ得られない情報が多く、断片

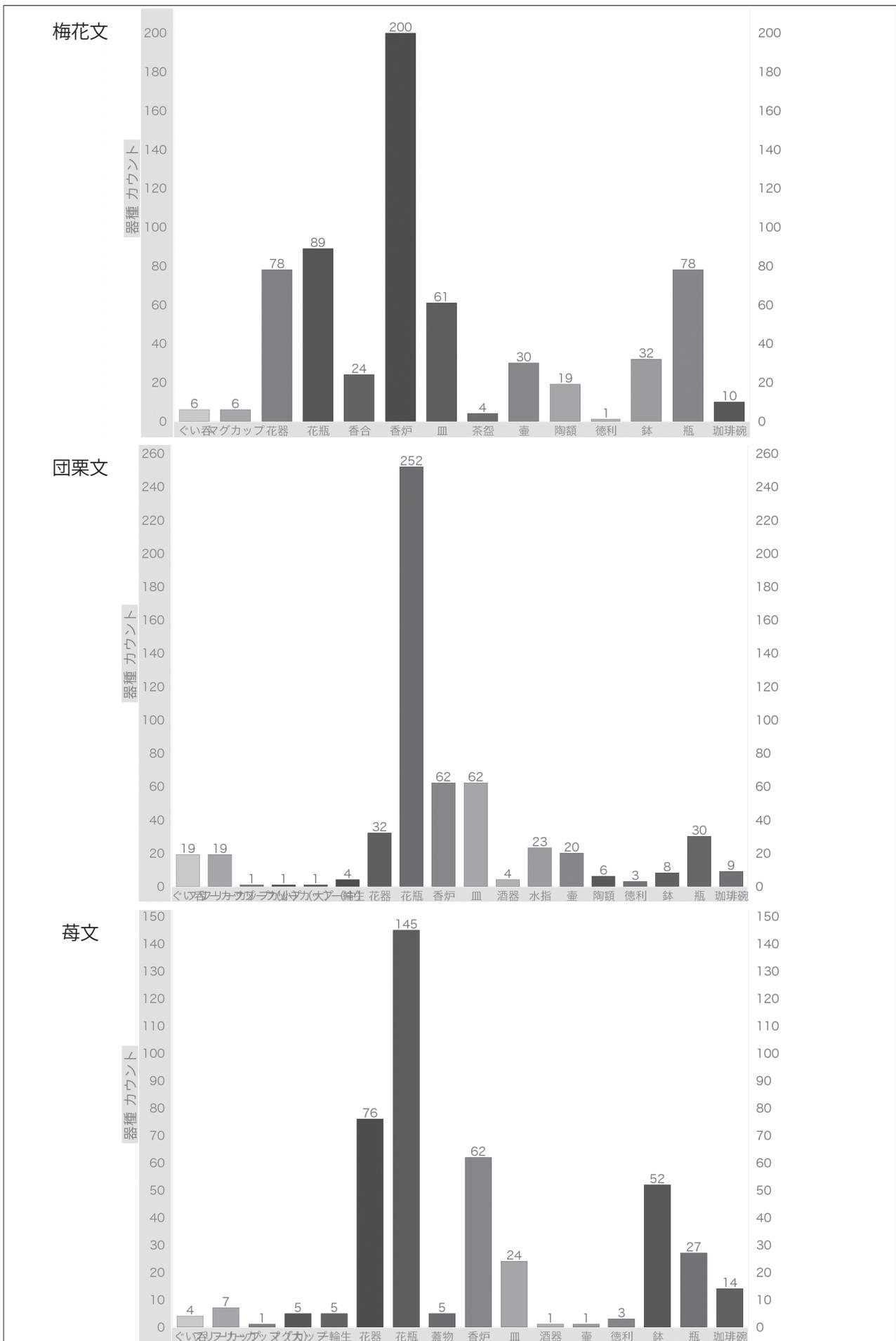


図7 作品点数が多い文様と器種の数

的な情報や一見変化がないように思える情報でも、10年や20年という長期的な視点で比較すると僅かな変化を抽出できる可能性が考えられる。現段階では、意味をなさないように感じられる情報でも得られるものは広く情報収集し、記録していくことが重要である。

本データベースによって、作家と作品の双方向的な観点から考察することが可能となった。今後、ギャラリートークの分析結果をデータベースと連携させることで、作家と作品の相互関係をより深く分析することができる。その一方で、個展会場に足を運んで得られた断片的な情報は、カテゴリ化する事が難しくデータベースに収録できていない。しかし、実際に個展会場を訪問し、自分の目で作品を観察することには大きな意味がある。当然ながら、実物の作品は三次元で様々な角度から細部を観察でき、表文と裏文のバランスや他作品とデザインを見比べることもできる。それ以外にも、十五代やスタッフとの会話から得られる知見など、現場に足を運ばなければ得られない情報は非常に多い。本研究では、個展の作品に関する情報のみをデータベースにまとめたが、将来的には断片的な情報も加えつつ、十五代に関する情報のデジタルアーカイブ化を図っていききたい。

6. おわりに

ネットショッピングの台頭や covid-19 等の影響を受け、営業終了を余儀なくされる百貨店が増えつつある中、個展のあり方を考え直すタイミングが徐々に近付いている。かつて五代酒井田柿右衛門が書き残した「土合帖」が、戦後不況の中にあった柿

右衛門窯を再び蘇らせたように、現在蓄積しているデジタルデータも後世に役立つ情報源となることを目指して、引き続き十五代を追いかけていきたい。

謝辞

本データベースを構築するにあたり、柿右衛門窯から多くの出品作品のデータを提供いただきました。十五代酒井田柿右衛門先生をはじめ柿右衛門窯スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。

注

- 1) 濱川和洋 (2020) 「テキストマイニングによる十五代酒井田柿右衛門の作品解説に関する分析」九州産業大学伝統みらい研究センター論集第3号, pp.83-108.
- 2) 濱川和洋 (2021) 「十五代酒井田柿右衛門のギャラリートークからみる制作意識の変化に関する分析」九州産業大学伝統みらい研究センター論集第4号, pp.57-72.
- 3) (2023) 「京成百貨店創業 115 周年特別企画 十五代 酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 株式会社 水戸京成百貨店 . より転載。
- 4) 辻靖彦, 芝崎順司 (2023) 「改訂版 データベース」放送大学教育振興会, p.12 より引用。
- 5) 辻靖彦, 芝崎順司 (2023) 「改訂版 データベース」放送大学教育振興会, p.3 より引用。
- 6) FileMaker, Inc. (2017) 「データの追加と表示」FileMaker Pro 16 ヘルプ, https://help.claris.com/archive/help/16/fmp/ja/index.html#page/FMP_Help/adding-viewing-data.html (最終アクセス: 2024.2.22) . より転載。

参考文献

- [1] 辻靖彦, 芝崎順司 (2023) 「改訂版 データベース」放送大学教育振興会 .
- [2] 柳与志夫 (2022) 「デジタル時代のアーカイブ系譜学」みすず書房 .
- [3] 十四代酒井田柿右衛門 (2004) 「余白の美 酒井田柿右衛門」集英社新書 .
- [4] 十四代酒井田柿右衛門 (2015) 「遺言: 愛しき有田へ」白水社 .
- [5] 佐賀県立九州陶磁文化館 (2015) 「土と炎: 九州陶磁の歴史的展開」佐賀県立九州陶磁文化館 .
- [6] 佐賀県立九州陶磁文化館 (2019) 「柴田夫妻コレクション総目録 (増補改訂)」佐賀県立九州陶磁文化館 .